

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅲ-1-2 発達段階に応じた教育の振興

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 学校企画課長 高橋 泰幸 電話番号 0852-22-5408

事務事業の名称	小学校スクールサポート事業	
目的	(1) 対象	31人以上の学級の小学校1,2年生
	(2) 意図	集団生活に早期に適応でき、学びの基礎を身につけるようにする
事業概要	対象校において、30人学級編制のための定数加配、又は非常勤講師の配置のいずれかを実施する。	

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	対象校への定数加配数及び非常勤講師配置数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		99.00	99.00	99.00	99.00	
式・定義	加配数+非常勤講師配置数		実績値	115.00	99.00	95.00	95.00		人
			達成率		100.00	96.00	96.00		%
指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位		
								目標値	0.00
式・定義			実績値	0.00	0.00	0.00			
				達成率		0.00	0.00		%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	107,758	114,624
うち一般財源(千円)	72,434	77,037

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- ・30人学級編制を43校で実施し（通常の学級編制に比へて49学級増）、49名の加配を行った。
- ・非常勤講師の配置を11校で実施し、46名の非常勤講師を配置した。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- ・児童一人一人に目が行き届きやすく、きめ細かな指導を行うことができた。
- ・基本的な生活習慣や学習習慣が定着することで、落ち着いた学校生活を送ることができるようになり、学級全体がまとまることができた。
- ・一人一人の学習到達度が把握しやすく、基礎学力の定着をしっかりと行うことができた。
- ・児童への声かけが多くなり、児童の様子や変化を詳しくとらえることができた。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- ・小学校入学後、学校や集団に適応できにくい児童が多く、個別の対応が必要な状況が数多くの学校で見られる。

②困っている状況が発生している「原因」

- ・児童一人一人への指導や支援、保護者への対応等が増加しているため。
- ・就学前の幼稚園・保育園と小学校との円滑な接続の取組が十分でないため。

③原因を解消するための「課題」

- ・児童一人一人への指導や支援、保護者への対応等が行えるような人的配置や学校の指導体制を強化していくこと。
- ・幼稚園・保育園と小学校とが児童の情報を共有し、よりよい指導や支援が行えるよう連携した取組を推進すること。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- ・各学校の実態を十分に把握し、市町村教育委員会と十分に協議を行って、より効果的な加配措置又は非常勤講師の配置を行っていく。
- ・学校訪問指導等で、幼保小の連携の取組について計画的に推進するよう各学校に指導する。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）